

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290300025		
法人名	医療法人 新光会		
事業所名	グループホームつながり		
所在地	〒419-0124 静岡県田方郡函南町塚本77-7		
自己評価作成日	令和3年1月9日	評価結果市町村受理日	令和3年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JgyosyoCd=2290300025-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 3 年2月 12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に同法人の医療施設が存在しており連携を図り易く、入居者様・ご家族様の安心に繋がっていると思われます。又、天気良ければ外へ出て太陽の光を浴びる事・身体を動かす事で健康を維持し、施設内に閉じこもらない事で気分をリフレッシュしていただける様に心掛けています。現在、新型コロナウイルスの影響で外出の制限がある為、カラオケ機器を導入し、歌・体操・脳トレなども楽しんで頂ける事となりました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者のペースを大切に、理念の「ゆっくり、ゆったり、ありのままに、いつもにこにこ」を意識したケアを心掛けて実践している。最近入所した利用者家族から「笑顔が見られるようになり、ここに入ってよかった。」と評価され、取り組んでいることが実を結んでいると実感できた。管理者と職員はさらにアイデアをだし、笑顔が見られるケアをめざしている。コロナ禍で外出が思い通りにできないので、カラオケの機械をレンタルして、歌や体操に利用し、楽しみを創出している。職員は情報共有ができており、研修も活発で、会議でも発言しやすい環境なので、利用者の笑顔につながっている。光触媒の機械を導入し、次亜塩素酸水の消毒も継続して感染対策を重視している。地域との連携を行っている途中でコロナの自粛期間になってしまったので、コロナ収束後は推進していく予定である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『ゆっくり、ゆったり、ありのままに、いつもにこにこ』という理念のもと、ユニット会議の中でも再確認する場を設け実践につなぐことが出来ています。	理念は会議の中で確認し実践している。年間目標を立て、職員の個人の満足度を高め、利用者の笑顔につながるようにしている。管理者は職員に事前にアンケート用紙を配り、その内容を面談で確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響で、地域の方々との交流が難しいのが現状です。散歩の際にご近所の方とお話出来ている程度です。	以前はカフェやサロンに外出支援を行ったり、ボランティアが来所したり、買い物にでかけ話をする事等を楽しみにしていたが、コロナ禍で現在は、控えている。地域との連携を構築していたので、今後も継続して取り組んでいく予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの影響で地域の方々との交流がとりにくい状況です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的を開催しておりましたが、運営推進会議もコロナ禍で自粛しております。	コロナで集会は難しかったが、書面開催で再開した。事業所の報告や研修内容の発表、意見交換を行い、身体拘束の研修報告も行っている。以前は参加者が限られていたので、今後は幅広く呼び掛け参加をしてもらう予定をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議、介護認定審査会などを通じて地域福祉課、地域包括センター、社会福祉協議会の職員の方々と協力関係を築けております。	行政の地域ケア会議は3か月に1回、介護認定審査会は毎月継続し施設長が参加している。運営や加算についての疑問点は行政に質問している。社会福祉協議会とはカフェやサロン、生活保護者の事等で意見交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し定期的な話し合いの場を設けており、他職員へもその内容を周知する事で取り組むことが出来ています。	指針は整備されている。委員会のメンバーは1階2階各一人と施設長で構成され、3か月に1度行っていて、内容は会議で周知している。職員に「不適切ケア自己チェックシート」を毎年アンケート形式で取り、課題に基づいて研修を行っている。	

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議の中で取り上げて学ぶ機会を持ち、管理者と職員は常に自分及び同僚の言葉・行為が虐待にあたらないか意識し、防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	オンライン研修で学ぶ機会を設けております。又地域で近く開催される成年後見制度の研修への参加もよめています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書に基づいて説明し、その中で疑問点があるようでしたらご理解いただける様ご説明させていただきます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議をその場の一つとしていましたが、現在は自粛し行う事が出来ていません。ご家族の面会も禁止とさせていただいておりますので不十分な状況です。	写真をたくさん載せたお便りを今までは不定期に発行していたが、コロナ禍で家族との面会が十分にできないので、毎月発行している。家族には電話で報告や意見を聞いたり、Wi-Fi環境を整え、今後はZoom面会を予定している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の会議の他、個別に話す時間を設ける様にして、職員の意見や提案を聞き、業務に反映させています。	ユニット会議を毎月開き、利用者全員のカンファレンスを行うので意見が多く出るようになった。施設長は職員にアンケートを配り、それに基づいて個別面談を行い、職員の思いを汲み取るようにしている。職員の採用で紹介制度をとりいれ、効果が出ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算等の見直しにより、給与水準の引き上げに繋がりました。労働時間にも配慮し極力時間外勤務とならないよう配慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員の力量を把握しており、研修への参加は積極的に勧めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの影響で交流の機会がとりにくい状況です。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族からお話を伺いご本人の情報を得ています。ご本人とも面会可能なケースであればご要望を伺うこともあり、事前に情報を職員間で共有することで、ご本人の不安の軽減、安心につなげています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設に対しての要望はケアプランに落とすことで職員間でも共有できています。特に初期の段階はわからない事も多く、不安感が強いと思われるため、専門用語等を使わずに質問には答える様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	それまでの生活の様子をうかがうと共に、今後必要となるとされるサービスを考え、提案し支援させていただいております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を念頭に置き、できることを共に、或いは分担して行なう様にし、暮らしを共にする者同士の関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との面会・外出の時間を有効に使っていただいていたのですが、現在は新型コロナウイルスの影響でそれも儘ならず、今後はオンラインでの面会等で対応する事も考えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・外出の機会を作ることが難しい中で現状は出来ていません。	以前は食材の買い出しに職員と利用者が一緒に出かけたり、カフェやサロンで顔見知りの人に会い、会話する機会があったが、現在はコロナ対策で外出を控え、散歩で近所の人に挨拶をする程度となっている。家族との面会はガラス越しに継続するなどの工夫をしている。	

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係は全職員が把握しております。共に作業やレク・散歩をする時間など設けており、時に衝突してしまう時は職員が間に入り対応させていただいております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院することで退所となった場合でも、入院先へ伺うなどして関係を断ち切る様な事はしていません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中から聞き出す様にしており、それを職員間で共有し対応を考えています。定期的に関係するユニット会議の中でも必ずカンファレンスの時間を設けており、より良い関り方の検討をしております。	利用者が快適に過ごせるようにその人のペースを大切にしている。部屋担当の職員だけではなく、全職員で全利用者介護するという姿勢でケアしており、会議でカンファレンスを行い、アイデアが多く出ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族に生活歴は必ず伺い把握するようにしています。入居後も会話の中から聞き出しサービス向上に繋がるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の引き継ぎの中、定期的に関係する会議の中で情報を共有し現状を把握しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の思いを元に介護計画を作成しており、状態の変化などを考慮し都度内容を検討し、必要に応じて変更をしております。	月に1度の会議でケアマネジャーも出席して、カンファレンスやモニタリングを行い、その内容に基づいて、ケアプランを作成している。利用者の思いを大切に考え、作成したケアプランは家族に説明しサインをもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録する中で、気づいた事があれば、気づきシートを使って職員間で共有し、プランの見直しにも活かしています。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対してすぐに対応できる姿勢でおります。すぐに対応できないときは、少しお時間を頂く旨説明し了承を得る様にしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域資源の活用が出来にくい状況ではあります。創意工夫し対応したいと考えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1度、かかりつけ医の往診があります。必要時は職員が同伴し、本人・家族の希望される場所で受診しております。	伊豆平和病院より月に1度の往診と訪問看護師が週に1回来所している。直接外来へ受診に行くこともある。皮膚科等の他科受診は原則家族対応だが職員が行くことが多い。准看護師資格を持つ職員に薬の管理と利用者の体調の変化の対応を行ってもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム職員の看護師が健康管理と医療支援をしています。介護職による異常の早期発見、報告は日々行なわれており、適切な受診や看護を受けられるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院に対し、ホーム入所中の状況をお伝えしています。又、入院中にはご家族、病院のMSWと連絡を取り、現状を伺うと共にその後の方向性についても相談させていただいています。退院し戻られる際はカンファレンスを通じて情報を得て、職員に周知することで入居者様が安心して戻れるような体制をとっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの方針については入居時にご家族に確認しております。その際はホームで出来る事と、出来ない事を明確にし、ご本人・ご家族様が望まれる方向を選択していただいております。	入居時に重度化、看取りについての方針を説明し同意書をもっている。法人の病院は入院も可能である。利用者が食事をとれない状態になると医師が家族に現状を説明し方針の再確認をして対応している。マニュアルも整備され、看取りの研修はウェブを使ったり研修を受けた職員が行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変や事故発生時の対応マニュアルを作成し、万が一の時に慌てず対応できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	風水害や地震を想定した避難マニュアルを作成し、年2回以上の災害時の訓練を実施しています。地域との協力体制は今後の課題です。	防災係を中心に管理者と計画を立て、防災訓練を半年に1度開催し、消防署とは連携をとっている。備蓄はすべて2階に移し、目視できるよう工夫し、台帳も整備されている。一昨年実際に水害の体験をした為、利用者を2階に避難させ、自然の驚異を感じている。	訓練は決まった月だけではなく、それ以外の季節も想定し、停電対策は法人も課題にしているため進められるよう期待します。地域連携を図り、協力体制を整えられるよう望みます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けや対応が、その人の誇り、プライバシーを損ねていないか気を付けています。声のかけ方・口調・表情・目線など、職員同士でもチェックしています。	名前の呼び方や、口調、目線等、気を付けるように研修を行っている。職員の不適切な行為などは職員同士やリーダー、施設長が注意をしている。尊厳とプライバシーの研修内容は運営推進会議で報告している。	声かけには特に注意を払っているが、とっさの時に何気なく口調が強くなってしまい、利用者や周りの人が驚くことがあるので、一人ひとりの人格を損ねない対応ができるように希望します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を口にできる方の場合、それに寄り添う事が出来る様に配慮し、希望を表出したり決定できない方の場合表情を見ながら対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースでお過ごしいただける様配慮しておりますが、時折職員都合の声掛けになってしまう事があります。今後の課題といたします。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で選ぶことができる方は選んでいただいています。又自身では選ぶことが難しい方は職員と一緒に選ぶ様にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日その日の食材をお見せしており、そこから会話が弾むこともあります。下膳は皆さんにさせていただき、洗った食器やトレイを拭いていただいてもいます。	食材は調理を行う職員が不足しているものを買出しに行き、利用者にも調理や片付けなど積極的に関わってもらい、手作りしている。行事に合わせて、お楽しみ食や誕生日にはリクエストに応じたり、時々テイクアウトも利用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形状・内容に配慮すると共に水分摂取量も十分であるか確認しています。定期的な会議の中でも一人一人の状態の確認をしております。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に必ず口腔ケアを実施しております。又、希望者は週1回の訪問歯科を利用して、口腔内の清潔を保持することができています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的にご自身で出来る方はお任せしております。状態の変化が見られお一人では難しくなって来た場合は、必要最低限の介助をさせていただいております。その日、その時の状態も考慮し、安全に排泄出来る配慮もしております。	日中はトイレでの排泄を基本にしている。水分摂取量を記録し、排泄のチェックや利用者の様子を観察して支援している。立位が難しい方は2人介助で行い、夜間はおむつにしたり、車椅子の利用者で辛そうにしている時はパッドを使用する等柔軟な対応を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状態は注意して観察しています。排便の無い日数を確認し水分補給、運動、食材、オリーブオイル、薬剤使用等に対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日はある程度決めさせていただいておりますが、その日の状態を見て時間帯や曜日の変更は行う様にしています。	週に2~3回入浴支援をしている。1階は曜日を決めず午前午後どちらにも対応し、2階は曜日を決めて午前中にし、日曜日は足浴をしている。現在の利用者は風呂好きが多いが、拒否の強い方には無理強いはしない。女性の利用者で時々同性介助を希望するので対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ほとんどの方が夕食後早々に就寝されていますが、自室で時々遅くまでテレビを見ている方もいます。日中の日光浴、外気浴、散歩が夜の睡眠を促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常勤の看護師が管理しており、個々の服用薬の説明書がいつでも見られるようにしてあります。与薬前は、必ず薬袋に記入された個人の名前、日にち、タイミングを読み上げ誤薬を防止しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日にはその方が好きな物やケーキを作って皆でお祝いします。又、季節の行事を行い楽しんでいただけています。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの蔓延により、外出支援が思う様に出来ない状態です。	天気の良い日には散歩をし、出会う近隣の人には挨拶を交わしている。コロナ前は外出外食を行いいちご狩りは恒例行事だった。また家族と外出外食へ出かけていた人もいた。外出が好きな利用者が多いので、車中ドライブを考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	新型コロナウイルスの蔓延により、買い物の為の外出も控えております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍の今こそ電話・手紙の支援の必要性を感じますが、現在出来ておりません。早急に対応したいと思います。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの椅子やテーブルは木製の物を使用しており、おくつろぎいただけると思います。 採光、風の通りも良く、食事時は調理の音や美味しそうな匂いが漂います。	部屋の換気は頻繁に行い、利用者は清掃で職員と一緒にモップがけをしている。各ユニット毎にテーブルの位置を変え、落ち着く環境を常に模索している。掲示物は季節感があり、絵心のある利用者が中心になって取り組んでいる。光触媒の空気清浄機を取り入れ、次亜塩素酸水消毒も行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、玄関前等にソファ、椅子、ベンチ等を置いてあり、それぞれ好みの場所で過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で馴染んでおられたものを持ち込んでいただいております。 カーテン・カーペットについては防災の物をご用意いただいております。	衣装ケースやダンスがあり、ハンガーラックにはその季節に着ることの多い洋服が掛けられている。また、職員が段ボール箱を使って棚を作り、パットやおむつが整頓されている。壁にはレクリエーションで作った作品が掲示され、整理整頓され落ち着いた雰囲気になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関には段差とスロープ、階段とエレベーターがあります。縦の握り棒、手摺、家具、歩行補助器に掴まり、或いは車いすを操作して移動されています。トイレや居室ドアに漢字で場所の明示をすることもあります。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290300025		
法人名	医療法人 新光会		
事業所名	グループホームつながり		
所在地	〒419-0124 静岡県田方郡函南町塚本77-7		
自己評価作成日	令和3年1月9日	評価結果市町村受理日	令和3年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JiyosyoCd=2290300025-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 3 年2月 12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に同法人の医療施設が存在しており連携を図り易く、入居者様・ご家族様の安心に繋がっていると思われます。又、天気良ければ外へ出て太陽の光を浴びる事・身体を動かす事で健康を維持し、施設内に閉じこもらない事で気分をリフレッシュしていただける様に心掛けています。現在、新型コロナウイルスの影響で外出の制限がある為、カラオケ機器を導入し、歌・体操・脳トレなども楽しんで頂ける事となりました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『ゆっくり、ゆったり、ありのままに、いつもにここ』という理念のもと、ユニット会議の中でも再確認する場を設け実践につなぐことが出来ています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響で、地域の方々との交流が難しいのが現状です。散歩の際にご近所の方とお話出来ている程度です。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの影響で地域の方々との交流がとりにくい状況です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催しておりましたが、運営推進会議もコロナ禍で自粛しております。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議、介護認定審査会などを通じて地域福祉課、地域包括センター、社会福祉協議会の職員の方々と協力関係を築いております。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し定期的な話し合いの場を設けており、他職員へもそれらの内容を周知する事で取り組むことが出来ています。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議の中で取り上げて学ぶ機会を持ち、管理者と職員は常に自分及び同僚の言葉・行為が虐待にあたらないか意識し、防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	オンライン研修で学ぶ機会を設けております。又地域で近く開催される成年後見制度の研修への参加もよめています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書に基づいて説明し、その中で疑問点があるようでしたらご理解いただける様ご説明させていただきます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議をその場の一つとしていたが、現在は自粛し行いう事が出来ていません。ご家族の面会も禁止とさせていただいておりますので不十分な状況です。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の会議の他、個別に話す時間を設ける様にして、職員の意見や提案を聞き、業務に反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算等の見直しにより、給与水準の引き上げに繋がりました。労働時間にも配慮し極力時間外勤務とならないよう配慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員の力量を把握しており、研修への参加は積極的に勧めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの影響で交流の機会がとりにくい状況です。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族からお話を伺いご本人の情報を得ています。ご本人とも面会可能なケースであればご要望を伺うこともあり、事前に情報を職員間で共有することで、ご本人の不安の軽減、安心につなげています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設に対しての要望はケアプランに落とすことで職員間でも共有できています。特に初期の段階はわからない事も多く、不安感が強いと思われるため、専門用語等を使わずに質問には答える様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	それまでの生活の様子をうかがうと共に、今後必要と思われるサービスを考え、提案し支援させていただいております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を念頭に置き、できることを共に、或いは分担して行なう様にし、暮らしを共にする者同士の関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との面会・外出の時間を有効に使っていただいていたのですが、現在は新型コロナウイルスの影響でそれも儘ならず、今後はオンラインでの面会等で対応する事も考えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・外出の機会を作ることが難しい中で現状は出来ていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係は全職員が把握しております。共に作業やレク・散歩をする時間など設けており、時に衝突してしまう時は職員が間に入り対応させていただいております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院することで退所となった場合でも、入院先へ伺うなどして関係を断ち切る様な事はしていません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中から聞き出す様にしており、それを職員間で共有し対応を考えています。定期的に関催するユニット会議の中でも必ずカンファレンスの時間を設けており、より良い関り方の検討をしております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族に生活歴は必ず伺い把握するようにしています。入居後も会話の中から聞き出しサービス向上に繋がるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の引き継ぎの中、定期的に関催される会議の中で情報を共有し現状を把握しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の思いを元に介護計画を作成しており、状態の変化などを考慮し都度内容を検討し、必要に応じて変更をしております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録する中で、気づいた事があれば、気づきシートを使って職員間で共有し、プランの見直しにも活かしています。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対してすぐに対応できる姿勢でおります。すぐに対応できないときは、少しお時間を頂く旨説明し了承を得る様にしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域資源の活用が出来にくい状況ではあります。創意工夫し対応したいと考えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1度、かかりつけ医の往診があります。必要時は職員が同伴し、本人・家族の希望される場所で受診しております。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム職員の看護師が健康管理と医療支援をしています。介護職による異常の早期発見、報告は日々行なわれており、適切な受診や看護を受けられるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院に対し、ホーム入所中の状況をお伝えしています。又、入院中にはご家族、病院のMSWと連絡を取り、現状を伺うと共にその後の方向性についても相談させていただいています。退院し戻られる際はカンファレンスを通じて情報を得て、職員に周知することで入居者様が安心して戻れるような体制をとっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの方針については入居時にご家族に確認をしております。その際はホームで出来る事と、出来ない事を明確にし、ご本人・ご家族様が望まれる方向を選択していただいております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変や事故発生時の対応マニュアルを作成し、万が一の時に慌てず対応できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	風水害や地震を想定した避難マニュアルを作成し、年2回以上の災害時の訓練を実施しています。地域との協力体制は今後の課題です。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けや対応が、その人の誇り、プライバシーを損ねていないか気を付けています。声のかけ方・口調・表情・目線など、職員同士でもチェックしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を口にできる方の場合、それに寄り添う事が出来る様に配慮し、希望を表出したり決定できない方の場合表情を見ながら対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースでお過ごしいただける様配慮しておりますが、時折職員都合の声掛けになってしまう事があります。今後の課題といたします。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で選ぶことが出来る方は選んでいただいています。又自身では選ぶことが難しい方は職員と一緒に選ぶ様にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日その日の食材をお見せしており、そこから会話が弾むこともあります。下膳は皆さんにさせていただき、洗った食器やトレイを拭いていただいてもいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形状・内容に配慮すると共に水分摂取量も十分であるか確認しています。定期的な会議の中でも一人一人の状態の確認をしております。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に必ず口腔ケアを実施しております。又、希望者は週1回の訪問歯科を利用してあり、口腔内の清潔を保持することができています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的にご自身で出来る方はお任せしております。状態の変化が見られお一人では難しくなって来た場合は、必要最低限の介助をさせていただいております。その日、その時の状態も考慮し、安全に排泄出来る配慮もしております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状態は注意して観察しています。排便の無い日数を確認し水分補給、運動、食材、オリーブオイル、薬剤使用等に対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日はある程度決めさせていただいておりますが、その日の状態を見て時間帯や曜日の変更は行う様にしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ほとんどの方が夕食後早々に就寝されていますが、自室で時々遅くまでテレビを見ている方もいます。日中の日光浴、外気浴、散歩が夜の睡眠を促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常勤の看護師が管理しており、個々の服用薬の説明書がいつでも見られるようにしてあります。与薬前は、必ず薬袋に記入された個人の名前、日にち、タイミングを読み上げ誤薬を防止しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日にはその方が好きな物やケーキを作って皆でお祝いします。又、季節の行事を行い楽しんでいただけています。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの蔓延により、外出支援が思う様に出来ない状態です。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	新型コロナウイルスの蔓延により、買い物の為の外出も控えております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍の今こそ電話・手紙の支援の必要性を感じますが、現在出来ておりません。早急に対応したいと思います。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの椅子やテーブルは木製の物を使用しており、おくつろぎいただけると思います。 採光、風の通りも良く、食事時は調理の音や美味しそうな匂いが漂います。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、玄関前等にソファ、椅子、ベンチ等を置いてあり、それぞれ好みの場所で過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で馴染んでおられたものを持ち込んでいただいております。 カーテン・カーペットについては防災の物をご用意いただいております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関には段差とスロープ、階段とエレベーターがあります。縦の握り棒、手摺、家具、歩行補助器に掴まり、或いは車いすを操作して移動されています。トイレや居室ドアに漢字で場所の明示をすることもあります。		